

【水道メールマガジン】 第12号(2020年2月)

県庁生活衛生課です／水道事業のタスキをつなぐ～技術の継承～

兵庫県健康福祉部生活衛生課です。

県では現在、2月議会が開会中です。皆さんの市町でも議会が始まり

水道に関する質問が出ることもあると思います。

メルマガ第2号(県のHPに過去のメルマガもアップしています)。

〔「兵庫県 水道 メールマガ」でweb検索〕で『水道にかかわる最近の議会質問』

についてお届けしましたが、もし答弁作成等でお困り(広域連携はどうなっている

のか、と聞かれている等)のことがあれば、何なりとご相談ください。

▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

今号の話題 _____

第12号 技術の継承について

▲▽▲

先日、『水道の技術的な研修会というものはないのでしょうか?』という質問を

頂戴しました。詳細をお聞きしますと、講演会的な研修会ではなく、これからの

水道事業の運営を考えていくと、実際の技術を身につけて、その技術を継承して

いくのに役立つような研修会があれば参加したい、という内容でした。

そこで今回は、ご承知の研修会もあろうかと思いますが、主なものをまとめて

みましたので業務の参考としていただければ幸いです。

○公益財団法人兵庫県まちづくり技術センターによる支援

本県の取組みの特徴としまして、(公財)兵庫県まちづくり技術センターに、

平成30年4月より上水道支援課を設置しています。この上水道支援課では、

市町が実施する水道事業における施設の老朽化に対応するため、改築・統廃合

にかかる計画・設計への助言や積算・工事監理など、計画的な老朽化対策を

支援するとともに、市町水道職員向けの専門分野研修等を実施します。

今後、企画して欲しい研修等がございましたら、まちづくり技術センター

上水道支援課もしくは当生活衛生課でも結構ですのでご連絡いただければ
と思います。

参考 URL

【https://www.hyogo-ctc.or.jp/ctc/business/sewer/sewer/_7.html】

○全国的な研修の状況

実務系の研修や座学・実務統合系の研修など様々なタイプがありますので、
どのような研修を受けたいのか、目的をもってご検討いただければと思います。

○国立保健医療科学院水道「工学研修」について【座学・実務統合系】

国立保健医療科学院では、保健医療福祉の分野での様々な養成訓練事業を
行っています。安全な水道水を安定的に供給するために、水道工学に関わる
各分野の基礎的事項を理解するとともに、最新の専門知識、技術を習得する
ことを目的としています。

参考 URL 【https://www.niph.go.jp/entrance/r1/course/short/short_kankyo02.html】

○大阪市体験型研修センター【主に実務系、座学・統合系もあり】

大阪市水道局では、取水から給水に至る水道のトータルな運営ノウハウを
習得できる、東京都に次いで日本で2例目の総合的な教育訓練施設「体験型
研修センター」を設置しています。

このセンターは、全ての施設が実際の施工現場を想定した環境であり、他都市
や海外の水道事業を担う人材の研修の場である「広域的な研修拠点」としての活用
も目指しており、県内でも既に参加されている事業者もいると聞いております。

詳細につきましては、個別にお問い合わせいただければと思います。

参考 URL

【<https://www.city.osaka.lg.jp/suido/page/0000020818.html>】

○公益財団法人水道技術研究センター(JWRC)【主に実務系】

水道技術研究センターにおいても技術支援事業を実施しており、浄水技術支援

事業では、水道施設等の機能の維持や向上を目的とする機能診断を実施しています。

また、水道施設等の円滑かつ適確な設置、維持管理の確保、水道技術の向上及びその適切な普及促進を目的に技術評価等を実施しています。

この浄水技術支援事業については、会員・非会員を問わず申請が可能です。

また、JWRCのメールマガジンに登録すると、研修会・講習会の申し込み受け付け開始の案内や最新トピックスをメールで届けていただけます。

参考 URL

【<http://www.jwrc-net.or.jp/jigyou/gjyutsu-shien.html>】

メールマガジンの登録先

【<https://www.jwrc-net.or.jp/magazine/info.html#top>】

○公益社団法人日本水道協会研修会【座学・実務統合系】

令和2年度の日本水道協会研修会の予定については、既に発表されております。

内容的には今年度ベースとなりますが様々なメニューが用意されておりますのでご検討いただければと思います。

参考 URL

【<http://www.jwwa.or.jp/kensyu/index.html>】

技術継承と一口に申しまして、現場でのマンツーマンによる指導から座学による知識の蓄積まで様々です。「人材育成・技術継承基本方針」として定めている事業体もあります。

また、技術面ばかりに目がいきがちですが、事務系に関しましても、公営企業会計など専門的知識が求められております。

今後、水道事業体として、水道の専門職員をどのように育成していくのか、どのような継承が自身の事業体にとっては必要であるか、日々の業務に励みながらも将来を見据えていただければと思います。